

農事組合法人 万葉の郷ぬかづか

～集落営農ビジョンに位置づけられた地産地消～
(平成21年度優良活動表彰 農林水産大臣賞(交流促進部門受賞))

代表者: 福井次男

所在地: 滋賀県東近江市

構成員: 生産者 32名

活動開始年月日: 平成12年6月 (法人化: 平成17年6月)



取組内容

1 一集落一農場による集落営農

- 「営農部」「加工部」「直売部」「飼料作物部」の4部門が、それぞれの能力を発揮し責任を持つ体制のもと、独立採算による運営しています。「営農部」は集落一農場による水稻栽培を営んでおり、遊休農地対策に貢献しています。
- 「直売部」が運営する直売所では、集落内の高齢者が週4日、野菜や切り花を出荷するほか、部員自らが店に立ち、生産者と消費者との交流に寄与しています。



野菜の直売

水稻の協業経営化により、農作業に従事する時間が少なくなった高齢者が野菜を減農薬で生産し、加工施設とともに設置した直売所で販売しています。

手数料は15%で、売れ残った野菜は生産者が閉店時間に持ち帰るシステムです。

- 平成17年から、消費者親子との交流を目的に、「環境こだわり米体験隊」を公募しています。オーナー制による田植え、稲刈り、芋ほりなど、12組の親子約60名が農作業に汗を流し、収穫の喜びや交流会での農家とのふれあいを楽しんでいます。



さつまいもの苗植え

直売所のおばあちゃん
は平均年齢約70歳。毎年
体験隊のちびっ子が
来てくれます。



農作業後の交流会

2 環境に優しい農業の展開、地域循環システムの確立

- いち早く「環境こだわり米」の栽培に取り組み、農薬や化学肥料を減らした農業を展開しています。集落内の全てのほ場で栽培に取り組み、生産から販売まで一貫した栽培管理、品質管理を実施しています。

- 「飼料作物部」では、「営農部」と連携し、稲わらを資料として活用するほか、牛糞に籾殻を混ぜて堆肥を作るなど、耕畜連携による循環型農業を推進しています。

集落内の酪農家から出る牛糞堆肥で土づくり



- 化学肥料を減らすため「地力れんげ」の作付けに取り組み、養蜂農家かられんげの種の提供を受けるとともに、はちみつは直売所で販売し、米粉パンの原料としても活用しています。



田植え前のレンゲ作付けで科学肥料を削減し養蜂農家と連携しています。

3 大人気の米粉パンをはじめとした加工の取組

- 「環境こだわり米」を活用した米粉パン、クッキー、パウンドケーキ、ラスクなどのほか、地元ジェージー牛の牛乳を使ったジェラートなどの加工品を開発・販売しています。



農薬・化学肥料を通常の5割以下に減らし、びわ湖や周辺環境への負荷を減らして作られたお米を使用しています。

- ミニ米粉パンを市内12の保育園におやつとして納入し、地元の子どもたちに提供するほか、市内外のイベントに積極的に参加し、米粉パンや米粉を使った加工品を多くの消費者にPRしています。

<最近の取組>

- 米粉の受託製粉はじめました。
新規需要米(米粉用米)の面積拡大と、米の消費拡大をめざし、受託製粉を始めました。
3キロから承ります。
料金は5キロ以上で、150円／1kgです。



農事組合法人 万葉の郷ぬかづか

- 所在地:滋賀県東近江市糠塚町1253
- TEL :0748-23-6898 FAX :0748-23-6928
- 営業日:水曜日、木曜日、土曜日、日曜日
- URL: <http://manyonosato.jp/>



平成22年6月作成